midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

１２月号の１枚：紅葉に染まる若柳嵐山の森

［巻頭言］雨でも休まず・・・１４年目の活動に入る

温暖化：50年先を考えて、今の森林活動をしている。

森林活動を始めた第一回は、1998年11月20日（第三日曜日）であった。この間13年11カ月、風雨の日は、相模湖駅前の公民館での勉強会に切り替えて活動を継続してきた。一回・一回の活動成果は微々たるものだが「継続は力」、それなりの蓄積となって１４年目の今は、少しは社会に向けて発信力を持つようになった。そんな状況下で、以下のような事も思っている。

毎月、“林野庁機関紙：林野”が送られてくるが、林野庁関連だけでなく総務省、国交省、環境省などヨコの連絡を取りつつ、マクロ的視点の記事も欲しい。国としての森林保全は、地球規模の視点に立って、国家戦略的な記事も発信すべきだと思う。

また、“林野”の記事と地方林政を照合してみると地方林政は、国の林政を咀嚼できないでいるようだ。各地の森林ビジョン策定には、国の林政との整合性が見えにくい。そんな状態にあるのは、私たち国民自身がこの問題に未だ関心が薄い状況だからではないだろうか。国政・地方林政等と連動しつつ、「一人の専門家より九十九人の私たち普通の人々」がこの問題を解決する事に、真剣に成らなければならない。課題が大きいからこそ、「国・地方自治・全ての国民」が一体となって取り組まねば解決できない。

それ故、50年・100年先の森林と、わが国の林業の在り方を考え、且つ、問題解決・実践の場を求めて当会は、「環境・経済・社会の持続的充実」であるFSC活動を推進している。僭越ながら全ての人々が、全生物の存続を想い・地球全体の問題に想いを致さねばならないと思うのだ。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2010.12

１２月　５日（第一日曜日）；
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
１２月１９日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

11月7日（第一日曜日）

　11月に入り、だいぶ寒くなってきた中での活動でした。今回は参加者がいつもより少なかったのですが、少ない中でも元気に活動に挑みました。

今回の作業は土留めと、先月行った径路の続きを行いました。午前中は後輩に作業を任せ、私は同じForestNova☆の神宮さんと2人で倉庫の整理を行いました。最初は1時間ほどで終わると見込んでいたのですが、物品の量も考えていたより多く、外に放置されていた物置を沢に洗いに行き、片付けることにだいぶ熱中したことで最終的に午前中全てをかけて整理を完了しました。倉庫がだいぶきれいになったと思います。

午後は後輩と合流し、土留めの作業を行いました。今回も斜面が急なところで移動するのだけでも大変でしたが、枝や木を移動するのも特に大変でした。もっと効率よく木を移動させる知恵や技術を吸収しようと思いました。後輩たちは先月の経路づくりを頑張っていました。歩きやすいかどうか何度も確認しながら階段を完成させていました。

活動後には小原の森の山主さんである小林さんのお宅にお邪魔させていただきました。巻き寿司をご馳走になり、とても心温かい対応をしていただき感動しました。色々とお話を聞くことができ、意見交換もできてとても楽しかったです。ありがとうございました。

今回の報告は以上です。

廣石　由美（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

11月21日（第三日曜日）

　秋色、眺めサイコー！

　赤・黄葉美しい嵐山。１１月後半だが暖かく、秋晴れに良い天気！。この日の参加者は日大実習生５６名、生命の森宣言６名、緑のダム・森林体験１６名、NOVAの森６名、一般参加者１３名、総勢９７名。

・桜井教授率いる日大実習は例年、秋の季節は２年生が多く、指導の助教授、院生とは顔なじみ。
今年は、相模渓谷沿いの巨木の森地区と、B地区に分かれて毎木調査と植生調査。音波で測れる最新のツールを使ってグループに分かれて測量・記録を取る。
森の中での実習地は急斜面で大変な作業もあるが、良い空気の中に緊張感を楽しんでいるような学生たちの爽やかな顔！。

・川田会員知人などの森林体験班は、斎藤・内野両会員のリードで森林散策と間伐・抜倒体験。東京女子大生の二名の方の曰く「貴重な体験ができました」

・また、桂北小教員の森川さんは小学校のエコ学習を積極的に進めておられ、来週の「緑のダム体験学校：桂北小学校授業」実習の下見に参加。

・いよいよ間伐の時節が来たので生命の森宣言東京班では、川田隊長の指導で間伐実習と枝打用のムカデ梯子の体験など果敢に取り組んでいる姿は、森の闘士・サムライのような姿でした。

・お花畑班は、花畑の手入をテキパキと済ませ、森の巡回視察に。秋晴れ日サイコーの天気で嵐山頂上からに眺めも素晴らしく、感動の秋の一日でした。

伊藤　小夜子（本会、会員）

１００名近い参加者（しかも若者が多い！）に活気づく若柳嵐山の森

[報告１]
森林循環フェアー

10月22日（金）
～ 10月24日（日）

森林の保全・再生のために開催された神奈川県主催の同フェアーは、小田原駅から３駅目・富水にある小田原アリーナで３日間、開催された。当会は、ＦＳＣ材積木を５０００個、出品した。
当会の積木広場は、積み木を楽しむために子供たちの滞留時間が長くなり、終日大賑わいの感を呈していた。

会場は、箱根に近い事から箱根細工の名品が数多く出品された。いずれの製品も日本人の繊細な感覚と器用な指先から生み出されたものだけに，ハッとする作品が展示されていた。ここは、地の利の余り良くない場所にあって３日間で18000人の入りだが評価すべきだろう。

石村　黄仁（本会、代表理事）

FSC本部理事の前で活動を紹介する本会の石村

[報告２]FSC本部主催による本部理事会にて活動報告

11月12日（金）

現在、日本・東京で理事会が開催されており、活動公開の場として開催された。

午前、日本のＣＯＣ（流通認証）の問題点として、FSCの知名度が未だ低く、希望する材が集まらないことに焦点を当てて議論された。認証費用を安くして欲しいとの声も出た。

午後，４団体事例報告は、山梨県、緑のダム、多摩農林（真如苑＋ＮＰＯの協働）、Ｆネット（ＮＰＯ＋岐阜県川根本町）の４団体。企業・森林組合の事例発表が無かったのは少し意外であった。ＮＰＯが活躍しているのが思いがけなく、第三の公共と言われるＮＰＯの社会進出に強烈な印象を受けた。夫々のＮＰＯ活動は多様でも、根幹部分は当会と似た活動を展開している。活動資金の基盤を行政や団体から得ているのが印象に残った。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告３]桂北小学校2年生課外授業

Forest Novaでは今年、桂北小学校2年生の生活科の中の課外授業を行わせていただいています。10月26日は与瀬神社の先にある貝沢で午前中に授業を行いました。2回目となる今回は、生き物やあそびを通して地域の川について勉強し、自分たちの生活と川の関わりを知ってもらいたいと考えました。

貝沢に下り、はじめに生き物探しを行いました。石をひっくり返したり、砂を掘ってみたり。2年生たちは夢中で生き物を探しています。何十匹ものサワガニやカゲロウ・トビケラの幼虫、ヘビトンボなどが見つかりました。2年生と一緒に生き物の名前を調べた後、どの生き物がどのような水質に住んでいるのか、という表を使って貝沢の水質を調べてみると、貝沢の水はかなりきれいだということがわかりました。

後半は、笹や木の葉で舟を作り、みんなで川へ流してレースをしました。2年生の中にはとても器用に、笹舟をたくさん作ってくれる子もいました。その後、この葉舟はどこへ流れていくのか想像してもらいました。2年生たちは、私たちが質問すると元気にたくさん答えてくれます。貝沢の水はこれから相模湖へ行くこと、相模湖の水は自分たちの使っている水になること、川は山に降った雨であることなどを学んでもらいました。

今回の授業で、2年生には川と自分たちの生活とのつながりを、体験を通して理解してもらえたのではと思っています。

神宮理沙（Forest Nova☆）

[報告４]全国森林インストラクター神奈川会（JFIK）と協働の途を探る

11月11日（木）

この日は月例の運営会を兼ねてJFIKと話し合った。具体的には、

当会の“緑のダム体験学校”をもっと高度化する事で「森林管理官養成：森林マイスター学舎」設立に向えられないか。現在、当会は，桂北小、高井戸中、望星高校・高輪台高校、学生連合フォレストノバと提携しているが、これらの活動を掘り下げて行けば、いずれ森林を専門に管理する学校造りに繋がる事が出来るかも知れない。「緑のダム体験学校」は、そんな事を考えるレベルに来ているように感ずる。

現在、相模原市が森林ビジョンをつくろうとしているが、これに協力して「相模原・ＦＳＣの森つくり」を形に出来ないか。これが出来れば「相模原・内陸グリーンハブ構想」にも繋がる筈だ。

当会は何時も大きな夢を描き、これに向かって邁進してきた。結果、今では日本を代表する団体の一つに育っている。問題は何を目指して実践・継続するかである。それは即ち理念：森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない"であり、これに向けて日々、森林活動に励んでいるのだ。

石村　黄仁（本会、代表理事）

生き物で水質調査

[報告５]東海大付属望星高校：文化祭報告

10月24日（日）

文化祭が開催され、総合講座「SPP望星の森」（炭素固定量調査・植生調査）の発表・展示がありました。

11時からと13時からの2回、ポスターセッション形式によるプレゼンテーションが、また、これら以外の時間帯に会場を訪れた方々には、設置したプラズマディスプレイを通じて、ビデオによる活動紹介が行われました。

ポスターセッションでは、２年次生の小林敦也君、１年次生の鈴木隆介君が発表。活動紹介ビデオでは、２年次生の伊原由希さんがナレーションを務めました。外部の方の前での発表、スタジオでの音声収録は、とても貴重な体験になったのではないでしょうか。

準備においては、昨年の「SPP望星の森」の受講生の一人である３年次生の斎藤麻代さんが、今年の受講生への助言・支援にあたり、当日まで牽引役を務めたとのこと。表計算ソフトを使った分析、分析結果の考察、さらには、本講座の伝統でもある活動ビデオの編集等、丁寧に教え、生徒が主体的に取り組む講座として確実に引き継がれた模様です。

例年2月には、学園の「SPP・SSH成果発表会」が開催されていて、それに向け、さらによい発表ができるよう、準備を進めているとのことです。

※ 総合講座「望星の森」の紹介・生徒の発表の場の提供を目的に、サイトを開設しました。
http://www.bosei.tokai.ed.jp/prj_site/mori/index.html

佐藤　修（東海大学付属望星高等学校　教諭）

[報告６]積み木から考える日本の自然

10月30日（土）

杉並区立高井戸中学校にて学芸発表会が行われ、合唱コンクールとともに開催された展示部門に積み木をお借りして参加しました。修学旅行で行った法隆寺をFSC積み木8000個で再現するという展示です。

法隆寺は日本最古の木造建築であり、ヒノキも使われていることから、まさにFSC積み木（ヒノキ材）にぴったりのテーマです。隣接する図書館から法隆寺の写真集を借り、外観のみを頼りに製作しました。作業は合唱コンクール練習後に有志で集まり、行いました。内部も実物同様に柱ではなく壁で支える構造になっています。

再現された五重塔や大講堂、大回廊

生徒からは「こんなに集中して物事に取り組んだことはない」「夜すぐに眠れた」と都会の教室にいながら、森での作業をした後のような感想を話していました。見学当日はあまりの迫力に声を失う生徒や、なぜ参加募集を知らせてくれなかったのかなど多くの声が寄せられました。高井戸中学校では、そう遠くないところで、森での作業にも参加したいと思います。

宮村　連理（高井戸中学校教諭、本会理事）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

９月号から会報の郵送を取りやめています。継続して郵送を希望される方は以下をお読みください。

現在、会費は３千円です。最近はNPOが増えているため、助成金の確保が難しくなっています。総会で決まった通り、事務費低減のため、会報は当会ホームページの閲覧を原則として、従来通りの郵送をご希望の方には、郵送費（１千円）を負担して頂きます。（ご希望のない場合は郵送は致しません）
ご協力よろしくお願いたします。

木工班メンバーを募集しています

木工班では、班長見習い１名、メンバー２名を募集しています。

間伐した木材を活用し、ＦＳＣ認証の森のグッズの商品化を目指しています。若柳嵐山の森の伐採現場での簡易製材、オリジナリティある製品の企画や製作に参加してくださる方を募集しています。

今まで実際に製作したものは地元の福祉協議会や駅前の飲食店に納入、活用されています。

興味がある方は事務局までご連絡ください。

SSH・東海大付属高輪台高校：森林特別講座を実施

文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校となっている高輪台高校の森林植生授業に参加しました。極めて高い基準の授業には驚かされ、生徒の知識：学力の高さと授業を受ける態度の真摯さ、課題の分析・組み立ての仕方は見事でした。この高校の理念は、〝若き日に知性・品性・感性を磨け〟というものだ。この授業には当会の　内野理事（早大本庄高等学院）、宮村理事(杉並区立高井戸中)　が外部講師として参加、指導したのだが、この二人の指導も見事でした。11月6日土曜には若柳嵐山の森での測量、生態系実習も行われました。
この講座の様子は同校の鈴木先生に来月号にて報告をお願いしています。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・・何か美味しいものを準備する)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ